

お金の「知恵」を みにつけよう

Vol.52

人間ドックの数字、 気になりますよね

会社から受診を促されて人間ドックに行く人、多いと思います。早期発見、早期治療は重要なことですが、ついつい後回しにしてしまい、会社から「早く受けなさい！」と怒られている人もいるかもしれません。

国の年金制度にも似たような仕組みがあります。5年に一度「年金財政検証結果」というものを公表しており、現状および将来の見込み試算を公表する仕組みです。年金制度の将来の安定性や給付水準を『見える化』し、必要な法律改正の可能性を探るための取り組みとして行われています。

今年の7月に最新版が公表されたのですが、あまりニュースになりませんでした。5年前や10年前であれば雑誌が大特集を組み、テレビが何度も取り上げていたのですが、なぜでしょうか。

人間ドックも、悪い数字が出ると「これは大変だ！」となって問題視され、再受診を求められ

年金の人間ドックはいい数字 特に若者の 年金未来像は好転？

ですが、A判定の結果ばかりだと、「とりあえず大丈夫そうですね」というくらいにしかお医者さんにも説明されません。

実は今回の年金財政検証結果、思った以上にいい結果だったので、あまりニュースに取り上げられなかった、というわけです。

働く女性の未来の年金は明るい？

今回の結果では、かつて言われていたような「少子高齢化で年金制度は破たんする」とか「年金積立金は枯渇する」ということはありえないことがはっきりしています。年金積立金の

額はアメリカに次いで世界2位の水準ですし（G7のほとんどの国は積立金がない）、女性と高齢者が働く社会になったことで財政不安も遠のきました。

さらに興味深いのは、追加で示された資料です。そこには「若い女性の年金額は、現在、年金を受給している世代よりも多くなる」というデータがあったのです。

一般には、若い世代ほど年金水準が下がると理解されています。それは「国民年金のみもらう専業主婦」のように条件が同一だった場合です。

現実の若い女性には20歳で結婚し60歳まで

専業主婦になる人はほとんどいません。多くの女性が就職をし、また結婚や出産を経験しても離職せずに働き続けるようになりました。会社も寿退社を強制することはできません（社内結婚で女性だけ退職を強制することも昔はありましたが今はできません）。

そうすると、「厚生年金に長く加入して将来の年金をもらう女性」が増えていくことになります。

モデル年金では「20歳で結婚して専業主婦となつて60歳まで国民年金のみに加入していた女性」が登場しますが、そういう人はこれからの世代にはほとんどいないわけです。

試算によると、現在、年金をもらい始める65歳の世代では月7〜10万円の年金をもらう人たちが中心ですが、現在、20歳代の世代では男性に近い水準である月20万円以上もらう人たちが中心となります（未来の年金額は現在価値に直してあります）。

男性も60歳以降働く人たちが増加したことで、現在、年金を受給している人たちがより年金額がアップしますからご安心を。

年金についてイメージを 変えてみては

年金というと「どうせもらえないんでしょ」というようなネガティブなイメージがあります。しかし、そのほとんどは間違いです。

私たちがしっかり働き、経済が成長していけば、私たちの未来を支える年金を確保することができるのです。



◆プロフィール
山崎 俊輔(やまさき しゅんすけ)

・AFP(2級FP技能士) ・消費生活アドバイザー
・投資教育家 ・年金教育家

YouTubeチャンネル

「FPヤマサキのシャープなこんにやくチャンネル 山崎俊輔」
<https://www.youtube.com/@FPyam>